

脳システムの脆弱

松浦 俊博

イスラエルのガザに対する執拗な蛮行を聞くと気分が悪くなる。ガザの多くの人たちを皆殺しにした挙句、飢えさせて食料支給所に殺到させて銃撃する。明らかに彼らの思考は日本人と異なる。異常に見えるこの特性は生まれつきなのか、それとも環境のせいか。彼らは「我々が武器を放棄して戦わなくなれば平和は訪れず我々が消滅されるから戦い続ける」と言うが、そうなのは彼らに協調性がなかったことが大きな原因だろう。古代ローマでも、彼らの先祖はその周辺に固まって住み着き、兵役などの義務は果たさず商売をして稼ぐため、ローマ市民の仲間に入れなかったのは自然だ。彼らの脳はどうなっているのだろうか。

脳には約一〇〇〇億個の神経細胞がシナプスにより接合しており、その繋がりの一部を電気信号が流れることにより記憶が形成・表象されるそうだ。記憶はコンピュータメモリと違って、視覚・聴覚などの感覚の認識が時刻のラベル付きで脳のいろいろな場所に保管される。例えば目で見た視覚情報は、一次視覚野を経由して頭頂葉や前頭葉に達するが、すぐに一次視覚野に戻りそれで初めて認識されるそうだ。つまり脳で編集された情報が記憶されるので、同じものを見ても人により認識が異なるわけである。「人は見たくないものは見えない」と言われる所以である。認識の際に他の記憶情報と繋がるとその繋がりはシナプスの変形として保管される。洗脳のようにある情報を繰り返し学習させられると、そのバイアスから逃げられなくなる。イスラエルが蛮行を続ける原因は、この脳システムの脆弱な特性によると思う。現在の日本人の脳には著しいバイアスがかかっていないのだろうか。

イスラエルやロシアなど、戦いを仕掛けた国々でも、多くの兵士たちはPTSDに一生苦しむことになる。当然その家族も影響を受ける。そのようなことは優先度が低いと考えているのだろうか。

もし人が死ななくて済むなら国は消滅してもいいと思うが、国が一つ消滅しても戦いは終わらず、人は死に不幸は続くだろう。周りの国々と協調し、戦いを避けるしかない。

用語説明…PTSD（心的外傷後ストレス障害）トラウマ体験の後、その記憶がフラッシュバックのように思い出され不安や緊張が高まる状態。ベトナム戦争やイラク戦争に従軍したアメリカ兵の多くが被害を受けた。